



関川村

第130号

令和5年2月15日発行
2023

議会だより



大島保育園だんごさし

- 会議報告 2 ページ
- 議員活動報告 3 ページ
- 一般質問 6名登壇 4 ページ
- 村民の声 渡辺康子さん 10 ページ



村のホームページでもご覧になれます。
<http://www.vill.sekikawa.niigata.jp/>

発行 関川村議会 発行責任者 議長 渡邊秀雄
編集 議会広報常任委員会 TEL (0254) 64-1494

会議報告

10月(第10回)臨時会議
10月13日開催

議案4件(抜粋)

■災害被害者に対する村民
税等の減免に関する条例の
制定

◇令和4年8月3日からの
大雨等による被害者に対し、
村民税、固定資産税、国民
健康保険税の減税について
の条例制定。

■一般会計補正予算

3億5620万円

追加補正

◇村民1人当たり1500
0円の商品券を配布する暮

11月(第11回)臨時会議
11月18日開催

議案2件

■一般会計補正予算(抜粋)

3060万円

追加補正

◇災害復旧費として、農業
生産基盤整備に540万円
と復旧工事請負費として1
500万円を補正。

■介護保険特別会計

50万円

追加補正

◇電算関係委託料として事
務処理に20万円とシステム
改修に30万円を補正。

12月(第12回)定例会議
12月8日～15日開催

議案20件 陳情1件

発委案3件(抜粋)

■選挙運動の公費負担に関
する条例の一部改正

◇村長・村議会議員選挙で
使用する車の経費、ビール、
ポスターの公費負担の単価
が公職選挙法の改正に伴い
引き上げられます。

■村職員の定年等に関する
条例の一部改正

◇職員の定年を60歳から65
歳に引き上げる条例の改正
と、それに関連する条例を
改正するものです。

■村議会議員の議員報酬及
び費用弁償に関する条例の
一部改正

◇期末手当の支給月数を勸
告に従い、改正するもので

■一般会計補正予算
9億7960万円

追加補正

◇災害救助ボランティアセ
ンター運営費補助金として
580万円。

◇観光振興対策費として、
にゃん吉の公式キャラクターク
ー化(着ぐるみ制作)とメ
ディアおよび広報委託料に
182万円。



◇災害復旧事業の測量調査
委託料2億5000万円。
工事請負費7億円。

■陳情

「家族農業を守り、食料自
給率の向上を目指す食料・
農業政策への転換を求める

意見書」の採択を求める陳
情

◇すでにこれに代わる政策
を実施して復活は容易
ではないとの理由から、反
対多数により不採択となり
ました。

■発委案

脱炭素調査特別委員会の設
置に関する決議の提出につ
いて

◇村が脱炭素先行地域に指
定されたことに伴い、議員
も持続可能な脱炭素地域の
実現に向けた調査研究を目
的に委員会を設置します。

■発委案

防災・減災、国土強靱化対
策の継続および拡充を求め
る意見書の提出について

◇大規模災害への対策とし
て国および県に対し意見書
を提出します。

議員活動報告

◆令和4年度 関川村議会・小国町 議会議員交流会

●期日

令和4年10月18日(火)

●会場

小国町役場ほか

毎年恒例の関川村議会と小国町議会との交流会が、小国町を会場に開催されました。

はじめに、小国町教育委員会高校魅力化推進室の高橋俊典氏から「小国高校の価値とは」小国高校と小国町による魅力化の取り組み」と題して講演をいただきました。

小国高校は、創立74年、全校生徒が74名の学校です。このうち、令和4年度は全国各地から10名の留学生を受け入れているとの説明がありました。

小国町では、町内中学校から小国高校への入学者割合が低下傾向にあったこと、山形県が示した高校再編計画に危機感を覚え、「地域と

ともにある学校」との位置付けで町や地域のサポート体制を構築しているとの説明もいただきました。



講演後の視察では、酒蔵を改修して建てられたワーキング拠点「酒蔵カフェ&コワーキングスペース」、



カモスク

「カモスク」を見学しました。

1階がカフェ&コワーキングスペース、2階が会員用のワークスペースとして活用されているそうです。

◆新潟県町村自治に 関する研修会

●期日

令和4年11月1日(火)

●会場

自治会館

●講演

「地域再生の道―農山漁村発の地方創生」



◆森をはぐくむ 地域づくり講演会

●期日

令和4年11月24日(木)

●会場

新潟ユニゾンプラザ

●講演

「山形県再造林推進機構の設立と活動」



一般質問



加藤 和泰 議員

JR米坂線、今後の見通しは
部活動の地域移行を
どのように進めるか

議員

JR米坂線の全面復旧に向けて沿線自治体、新潟県、山形県、国並びにJRとの協議はどのように進んでいくのか。

村長

8月3日から4日にかけての豪雨で被災したJR米坂線は、いまだ復旧の見通しが立たず、列車運休によりバスによる代行輸送が続いています。

今後の協議について、被災後の8月20日に防災大臣が来村された際、早期復旧の願いをしました。

また、米坂線整備促進期成同盟会として、8月12日付けでJR東日本新潟支社に対して早期復旧の要望をしています。

8月22日には、JR東日本新潟支社長が来庁され、被災状況の報告をいただきました。

12月末にも再度新潟支社長が来庁される予定ですので、重ねて早期復旧をお願いする予定です。

議員

JR米坂線の在り方について、鉄道ネットワーク全体として鉄道として維持していく考え方、また一方で鉄道を含めた地域公共交通の将来に向けて、持続可能で地域住民に本来に必要な姿を構築するという考え方、大きく2通りの考えがあるのではないかと思うが、村の考えは。

村長

日本の鉄道ネットワークがどうあるべきかということとは、JRの採算性だけでなく、広域観光の視点でどうあるべきか、災害時の物流、人流を確保するためにどうあるべきか、東京一極是正をする政策において鉄道の役割がどうあるべきか、国が国の責任において議論すべきだと思います。

赤字路線をJRと地域に押し付けるのではなく、まずは国でしっかりと議論していたきたいというのが私の想いです。

議員

越後下関駅が、1月以降

無人になるが、特に冬期間は代行バスのダイヤが乱れることも予測される。利用者への周知等、JRと協議が必要ではないか。

村長

JR側と村の担当による情報交換の中でも、利用者への周知について要望しています。

また、利用に関する情報は、今後も必要に応じ、村でもお知らせします。



教育長

文科省は、令和2年に学校の働き方改革について示し、令和5年度以降、休日の部活動を段階的に地域に移行していくこととしました。

村では、数年前からスポーツ少年団の指導者と学校、教育委員会の三者で受け皿や連携について協議してきましたが、現段階では休日に指導できる指導者がおらず、令和5年度からの地域移行は難しい状況です。

教育委員会としては、引き続き、村独自の受け皿の設置や指導者の確保に取組むとともに、場合によっては近隣市との連携を検討するなど、あらゆる可能性を見据えて閔川村に合った生徒への活動の場を提供していく考えです。

議員

中学校の部活動が今後、地域主体になっていく見通しの中、地域の皆さんが加わるにより、良い方向につなげていくような環境整備に力を尽くしていただくよう希望する。

議員

中学校部活動の地域移行を、今後どのように進めるか。

一般質問



小澤 仁 議員

脱炭素先行地域に選定

議員

11月に環境省の脱炭素先行地域に選定された、加藤村長は「豊かな資源を活用できる関川村にあった地域振興策であり、産業振興策である」とコメントを発信している。制度の概要と村長の決意を伺う。

村長

脱炭素先行地域では、地方自治体や地元企業、金融機関等が中心となって、農山漁村、離島、都市部といったそれぞれの地域特性に応じて、地域課題を同時に解決し、住民の暮らしの質を向上させながら脱炭素を実現させるといふこととなります。具体的には、地域にある再生可能エネルギーの最大活用や、住宅や建築物での省エネの導入、再エネ電力の利用促進を組み合わせ、家庭など民生部門の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門等についても国全体の2030年度目標と整合する削減を実現するため、2025年度までに脱炭素の達成を目指すこととなります。

今回の計画では、役場、道

の駅を中心として、下関、上関集落がそのエリアに選定されています。関川村の取り組みは、脱炭素に取り組みもうとする全国の豪雪山間地域のモデル、国が言う実行の脱炭素モデルですので、全国から注目される中で改めて、私としてはその責任の重さを感じているところです。村民の皆様は暮らしを豊かにしつつ、地域に元気を与える取り組みとして民間のノウハウや資金を活用しながら、官民協働により着実に事業を展開させていきたいと考えています。

議員

脱炭素先行地域に選定されたことで村民のメリットは。また、懸念材料があるとすれば何か。

村長

脱炭素への投資は村の未来への投資と考えています。山と川と湯の里関川村は、豊かな自然と資源に恵まれており、こうした資源を有効に活用する仕組みを作ることは、地産地消、地元で消費するものは出来るだけ地元でまかなうという考えに通じ、資金の内

部循環により地域経済の活性化に資するものと考えています。この度、脱炭素のトツプランナーとして選ばれたことから、関連企業から既に注目を浴びており、今後、事業を進めることにより、益々注目度を増し、見学者の増加などにより産業観光あるいは交流人口の拡大にもつながるものと考えています。さらには、関連する企業の進出雇用の場の確保という村のこれまでの課題解決にもつなげられると考えています。

村の暮らしにおいては、発電された省エネ電力を村民の皆様が使用することで、外部要因に左右されにくい安定した電力の使用が可能となります。また、主要施設においては、それぞれ自営線ですなぐことにより、災害に強い地域づくりが図られるということになります。懸念材料は、いかに計画に沿ってスピーディーに事業実施を図れるかという点にあるかと思えます。村の職員だけでは、当然事業が進められませんが、村の体制強化をしつ

議員

計画提案の中の「林業全体の経営健全化を図る」とある。具体的な構想は。

村長

森林林業の経営健全化を考えるに当たり、中長期的視点で考えることが重要です。森林経営の基本は植えて、育て、切つて、使うという循環です。これまで、再生可能な資源があっても地域内の木材需要が少なく、循環の中の使う、の部分を解決すべく、出口戦略が大きな課題となっていました。村としては、この脱炭素事業に小型の木質バイオマス発電を取り込みその燃料として地域材を利用することで、森林循環を生み出していく考えです。持続的な循環が実現すると、村の林業における地産地消が推進され、産業の活性化が見込まれます。

一般質問



近こん
壽と太した郎ら
議員

技術系災害ボランティア団体 との関係構築を

議員

このたびの災害により多くの家屋が被災し、いまだほとんどが復旧に至っていない。一刻も早くもどおりの生活に戻ることを願っている。この災害については多くのボランティアの支援をいただいたことに心から感謝を申し上げる。

今回はNPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワークという団体を初めて知った。この法人は小規模なNPO法人災害支援ボランティア団体をまとめて支援する組織である。所属する法人は全国で約50団体と聞く、今回の技術系災害支援の主な応急的内容は床ががし、床下の乾燥、壁ががし、断熱材の撤去、基礎材のブラッシング、床下の消毒等の他、乾燥機材の貸与、資材提供など全て自前でまかなっている。この他、高田集落では災害後早い段階で家屋の復旧に対する処置方法の説明会を行っている。私の知っている2団体では延べ人数で約1

30人の活動が報告されている。支援を受けた家族からは大変感謝されたと聞いている。

最近、内閣府で受援力という言葉が使われているが、私は援助される体制を築くことだと理解している。それと同時に村民同士助け合える体制づくりや復旧技術の習得も進めていく必要性も感じている。このことを踏えて次のことを伺う。

一、技術系NPO法人と災害協定を締結することについて。

二、技術系NPO法人による災害復旧に関する技術講習会を継続的に実施することについて。
それぞれ村長の見解を伺う。

村長

このたびの災害復旧に關しましては、多くのボランティアの方々のご支援をいただきました。社会福祉協会の報告によりまずと、一般ボランティアで延べ3000人、技術系ボランティアの団体が24団体、30

0人にもなりました。皆様の活動には心から感謝し、敬意を表するものです。近頃、災害が激甚化し頻発化しています。迅速な支援をいただくために、ご指摘の技術系ボランティア団体との協定締結については有効であると考えています。具体的には締結に關しましては、社会福祉協議会や、まとめ役である団体にご相談をさせていただいて対応したいと考えています。

災害復旧のための技術講習会の継続的実施については、実行性を上げるため村の防災訓練などと合わせて実施することも検討したいと考えています。

議員

早い段階で協定締結し、その後に技術講習会の実施が望ましい。羽越水害から半世紀以上経つてのこのたびの災害は、現役世代にとって初めての経験であり、この災害を忘れないためにも継続的な講習会の必要性を感じる。災害ボランティアネットワークでは平時の

取組として、ボランティアセンターや地域との連携強化。また、産官民の支援者同士との連携強化をテーマとした講習会を計画していると聞く。ぜひ関係構築に向け進めてもらいたい。いまま一度村長の前向きな発言を求める。

村長

いざ被災した時のためにも技術系ボランティアとのつながりを維持していくことは大事だと思っております。協定についてはなるべく早く締結すること、平時にしっかりと技術指導していただく必要があります。今後、体制強化を進めていきたいと思っております。

議員

閔川村とIVUSAとが災害協定を結んでいることが閔川村を支援するきっかけになったとボランティア団体の代表の方から聞いた。一番気になるのは来た時の対応が重要だと言う。今後この方々との活動が継続することを望んでいる。

一般質問



高橋正之 議員

8月豪雨による災害復旧の進捗状況は 米坂線の復旧 どのように考えているか

議員

9月定例会議において、8月豪雨による災害について、復旧復興をどのように進めていくのか伺った。ただいま、建設関係者の努力によって、復旧は進んでいるようだが、農地関係の用排水路、道路、河川、橋梁の進捗状況について伺う。

村長

まず初めに、農地農業用施設の災害復旧事業の進捗状況についてです。8月豪雨で被災した農地農業用施設は農地で553件、用排水路等の農業用施設で435件となりました。被害のあった農地農業用施設のうち、国の事業で復旧する災害復旧事業の進捗状況としては、農地92件、農業用施設97件、合計189件の災害査定を今週で終える予定となっております。

復旧工事については、緊急性の高い箇所や、国の補助金の交付決定前の着工等を行い、農地農業用施設を合わせて189件のうち90

件の発注を終え、うち農地6件、農業用施設8件の復旧を終えています。順次、来春の作付に向けて、復旧作業を進めているところですが、約半数の受注ができていない状況です。件数、規模ともに、復旧には村の建設業者で対応できる範囲を超えているので、現在、県の建設業協会へ働きかけ、請負業者の確保に努めているところであり、順次、地元関係者に復旧について説明をしていきたいと考えています。



桂地内

次に、村道、河川、橋梁等の復旧についてですが、

国の補助で復旧する村道は33か所、河川が12か所、合わせて45か所となっております。全て先月下旬に査定を終えて、順次、工事を発注することにしています。なお、橋梁単独での被災はありませんでした。今年度内に復旧を完了させることが原則ですが、事業規模が大きい箇所や関係機関との調整が必要な場合や、この冬の降雪状況によっては、事業を次年度に繰り越して完了させる場合もあります。また、村の単独事業による復旧は村道で37件、河川で19件、合計で56件です。このうち村道29か所、河川18か所については、既に完了済みであり、残りの箇所についても、年内に完了する予定です。

議員

米坂線について、村としてどのように考えているのか。村長の見解は。

村長

米坂線については、米坂線は、地域の子供たちが通学で使う地域の足として、また来村される皆様の移動手段としても、大変重要な路線であると考えています。いまだ復旧の見込みが明らかではありませんが、県や沿線市町村と連携し、早期の全線復旧を要望していきたくと考えています。



大内瀨地内

一般質問



伊藤 敏哉 議員

「脱炭素先行地域」に取り組む 村の将来像は

議員

この度本村が環境省から11月1日付けで「脱炭素先行地域」に選定された。これまで選定された「先行地域」は29都道府県の46件で、先駆けとなる「先行地域」に選定されたことは、他の自治体や企業から注目されるとともに時代の流れを見越した先見性と、応募に向けた準備、計画づくりに対して深く敬意を表するところである。

村民への周知の観点から「脱炭素先行地域」の①制度の概要、②応募に至った経緯、③提案した計画を進めることで描ける村の将来像について伺う。

村長

①「脱炭素先行地域」は、地方自治体や企業、金融機関などが中心となつて、農山漁村、離島、都市部といったそれぞれの地域が抱える課題を解決するため、住民の暮らしの質を向上させながら脱炭素を実現するものです。具体的には、地域

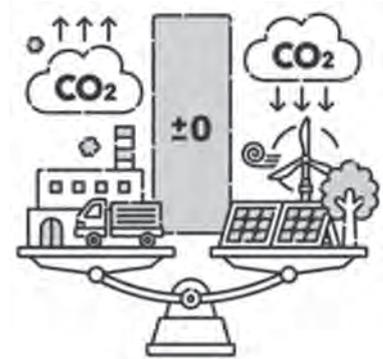
にある再生可能エネルギーの活用や、住宅等建築物での省エネの導入・再エネ電力の利用を組合せて家庭など民生部門の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロ実現を目指すもの。このため2025年度までに道筋をつけ、30年度までに脱炭素を実現する計画です。

②関川村は豊かな自然と多様な資源に恵まれており、これらを脱炭素の実現に向けて最大限活用することは、地球温暖化対策として有効であることはもちろん、エネルギーの地産地消を実現することにより、様々な面から村内はじめ県内経済にも活力を与えるものと考え応募しました。

③脱炭素の取組を軸として、交流人口の増加や企業進出、雇用の場の確保などの地域課題が解決されることや災害に強い村となることを将来像としています。

議員

本村の計画では①太陽光発電・蓄電池の導入、②マ



イクログリッド構築（小規模電力網、エネルギーを地産地消する仕組み）、③林業活性化エネルギー高度利用化事業、④木質バイオマス発電設置、⑤ソーラーシェアリング導入（農地に太陽光パネルを設置して日射量を調整しながら作物を生産しつつ発電する仕組み）、⑥融雪設備設置などに取組むとしているが、事業費の総額はどの程度と見込んでいるか伺う。

村長

概算額で38億円程度と見込んでいます。但し、この額は全てを村の予算でまか

議員

なうということではなく、新たに設立を見込む新電力会社や、村の計画にある各種事業に取り組む民間事業者が投資する額の総額であるところご理解ください。

村長

エネルギーを外部から調達しているため近年倒産が目立つ新電力会社とは異なり、村が計画の中で設立を予定している新電力会社の取組みは、地域の皆さんにしっかりと事業の内容を説明し、地域の協力を得た上で「地産」の電源（風力発電や太陽光発電など）をしっかりと確保します。そして国の補助金を活用して低コストな電力を地域に供給して「地消」を進め、新電力と地域がウィン・ウィンとなるよう取組みます。

一般質問



菅原 修 議員

スキー場跡地の 風力発電進捗は

議員

わかぶな高原スキー場跡地での風力発電事業について
①計画の進捗状況は。
②地権者との賃貸借契約は。
③今後どのように計画を進めるのかを伺う。

村長

電力発電事業は、スキー場跡地には発電事業者が設置を行なう事業であり、村としては脱炭素社会の実現や地域振興の観点から基本的に望ましい事業と考えています。

一点目の進捗状況ですが、発電事業者によりますと現在、送電線への接続について東北電力ネットワーク株式会社との協議の段階であり、今後半年以内には見通しが立つ見込みであると聞いています。
二点目の地権者との契約は地権者全員に署名、捺印をいただき、11月30日をもって契約が成立します。今後は、これをもとに発電事業者と村との賃貸借契約を

行うこととなります。

三点目ですが、事業者は電力接続の見通しが立ち次第、環境アセスメントを含む現地調査を進めて事業計画を固めていき、2025年度を目処に詳細な事業計画を策定することです。その後工期が約2年必要となるので順調に進めば事業開始は2027年頃になると思われま。事業者はすでに地元と挨拶をしており、来夏頃に環境アセスメントの状況など住民説明会を行う予定としています。

議員

環境省が風車の羽の大きさの関係で反対しているという話を聞いたが、村としての対応は。

村長

村としても、環境省に対し、村の懸案事項だったスキー場跡地の問題がこの風力発電事業で解決の見通しがつくため、地元としてはぜひ進めてもらいたい旨を説明していきます。

議員

契約金は事業者が全て地権者に支払うのか。

村長

お金は、事業者から村が頂き、同額を地権者にお渡しする流れになります。

議員

事業化に伴うメリット・デメリットをどのように捉えているか。

村長

村としては地域振興のほか脱炭素の取り組みにもつながり、引き続き活用して欲しいという地元の要望にも応えられるものとして進めています。今後課題が出てくるかもしれませんが、現時点ではデメリットは見当たりません。

議員

ほかにも共有地を持っている地区からも風力発電事業をしてもらえないかという声があるが、村としての考えは。

村長

地球環境問題への対応というのは、すべての地域で取り組む問題であり、その一つに風力発電もあると思います。景観の問題もありますが、私とすれば各地域でそういう要望があり、それが発電事業者にとって対応できる、採算性の合うものであれば、進めてもいいと思っています。そのためにも村としても協力していきたいと思っています。



わかぶな高原スキー場跡地

村民の声

第二の故郷で…

わた なべ やす こ
渡 辺 康 子 さん
(上関)



新潟市内の美容室で、8年間修業をしてきました。その後結婚をして閔川村に来て、ヘアースタジオアトリエをOPENさせてもらいました。自分の店がもてたのは、義父母の協力があつたからです。感謝しています。

翌年、子供を出産して母親になり、美容師と母親の両立が始まります。最初は、不安で何をやっても中途半端で苦しかったです。子供が成長すると、学校行事・部活動が始まり、その時は、店を閉めて出かけました。

お客様には、迷惑をかけてしまった事もありましたが、先輩ママに話を聞いてもらって、「今しか子供達の成長は、見れないよ!」と、言われた言葉で、覚悟を決めました。どちらも諦める事は、出来なかつた、欲張りの性格だから。少し気持ちが軽くなりました。ず

つと、「私が頑張らなきゃ!」と、自分を追い込んでいたからです。悩みは、溜め込んで、ではダメ!吐き出さないと…。

その頃から人との繋がりが増えました。私が一人にならず、人が集まる場所を与えてくれたのが、家族でした。「母親で良かった。」と思えました。人と人との繋がりを大事にしたいと思つた瞬間でした。

以前、OPENする時に思つていた事があります。それは「お客様に似合うスタイル提案」「居心地の良い空間作りをする事」

お客様に笑顔になつても、少しでも大勢の人と出会い、会話し



て満足の行く仕事を続けて行きたい。その為の努力は惜しまない。

これからも誰かの為に、私に何が出来るのかを考えてみます。今まで多くの人の手を借りて支えてもらいました。感謝しています。

私が美容師になつて一番やりたかつた事は、カットでした。今まで多くの人の髪をカットしてきましたが、毎年流行のスタイルが出て常に学ぶ事が多かつたです。まだ来店されてない方も、是非一度、御来店下さい。お待ちしております。

編集後記

団子飾りは、一年の福を呼ぶ縁起物。家内安全や五穀豊穡等を祈願します。

大島保育園では毎年一月中旬に団子飾りをして園児の健やかな成長を願っています。今年は一月十三日におばあさん達にも手伝ってもらい楽しそうに団子をまめるめたり「ぬいご」に餅をつけていました。その様子を見てみると、戦禍におびえる子等の現状に、どうか無事であつて欲しいと祈るばかりです。

年が明けて二月になりました。今年もよろしくお願ひ致します。(こ)

議会広報常任委員会

- 委員長 加藤 和泰
- 副委員長 鈴木 紀夫
- 委員 近 壽太郎
- 委員 伊藤 敏哉
- 委員 小澤 仁
- 委員 高橋 正之